

平成21年度

鳥取県立高等学校入学者選抜学力検査結果

鳥取県教育委員会

1 教科別得点の平均点及び総得点の平均点 (全日制課程)

年度	教科名	国語	社会	数学	理科	英語	総得点
平成21年度	平均点	25.2	24.9	29.5	23.2	23.7	126.6

学力検査受検者数 3,736人

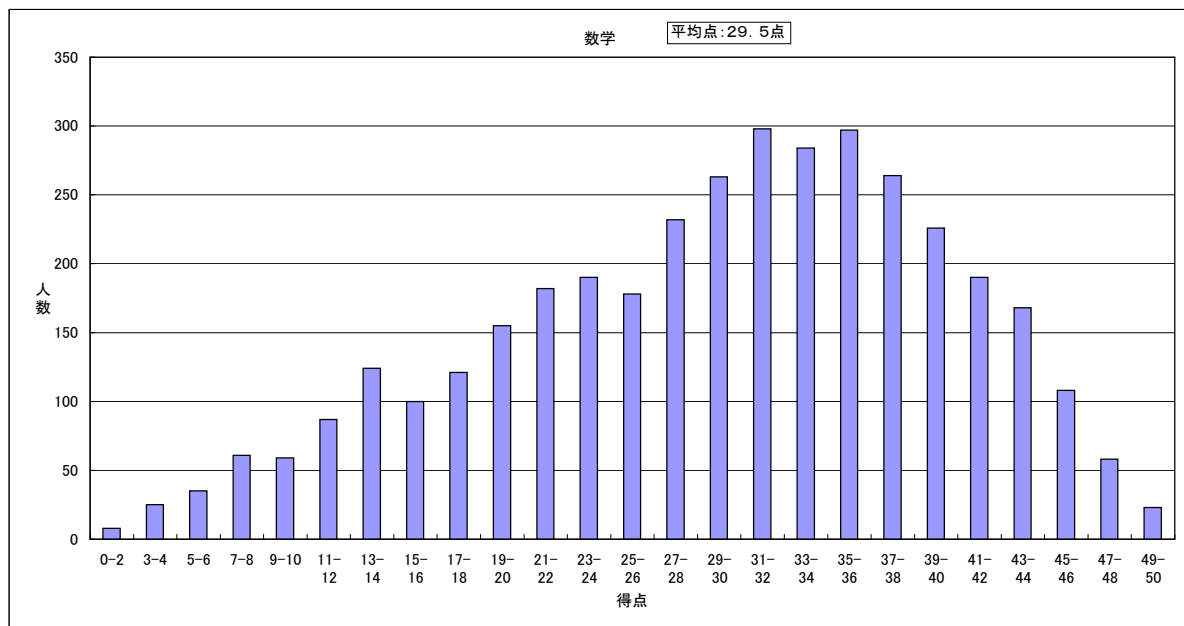
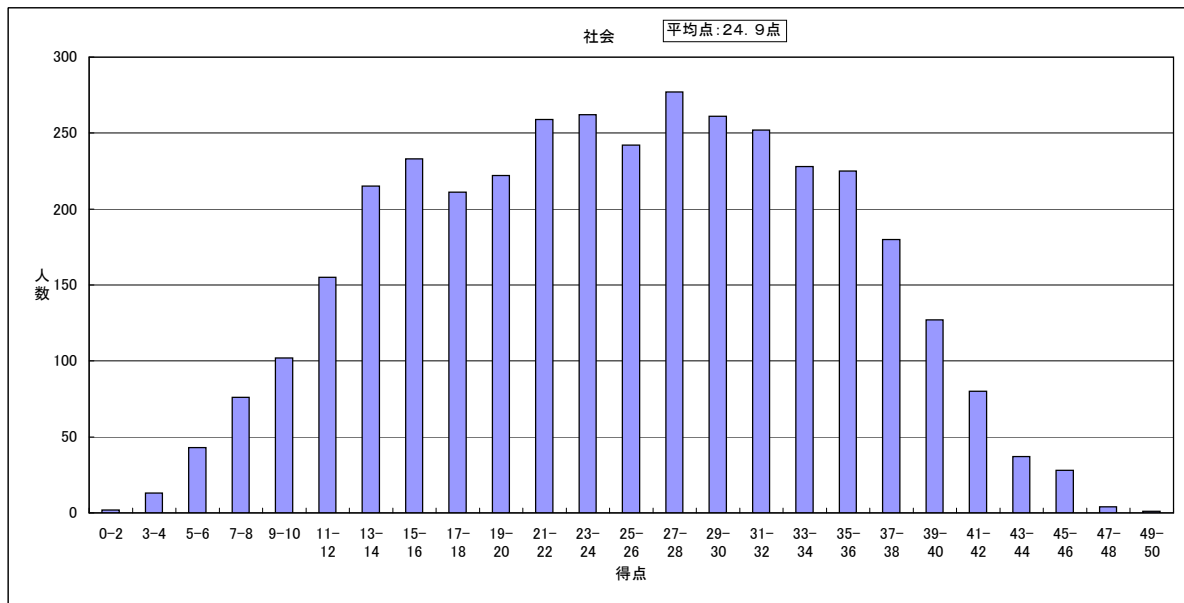
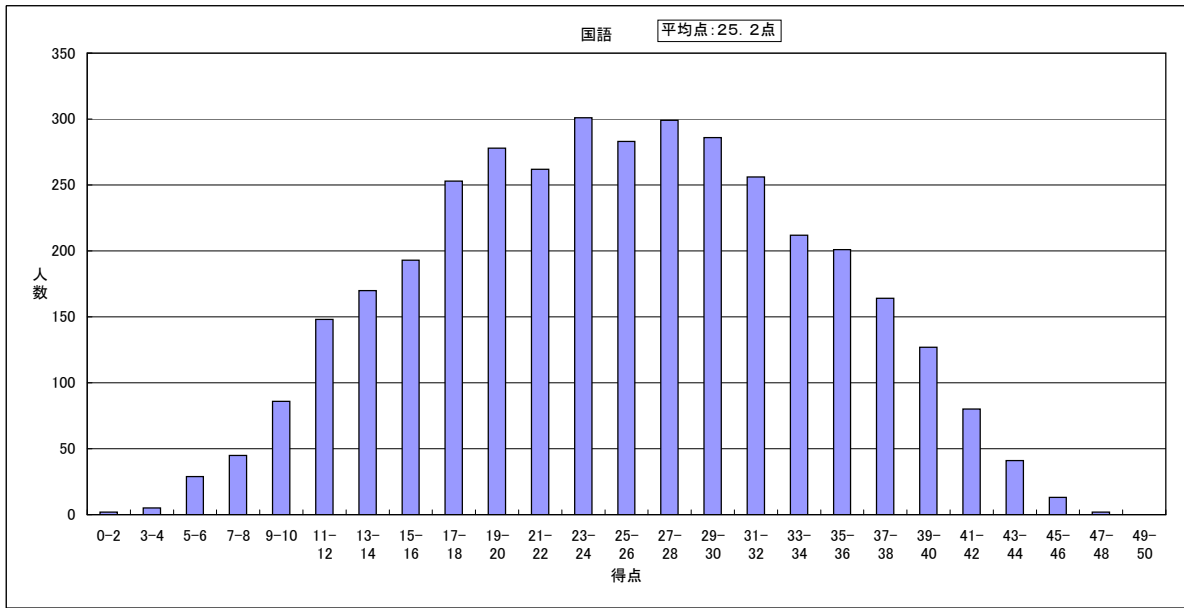
各教科50点満点、合計250点

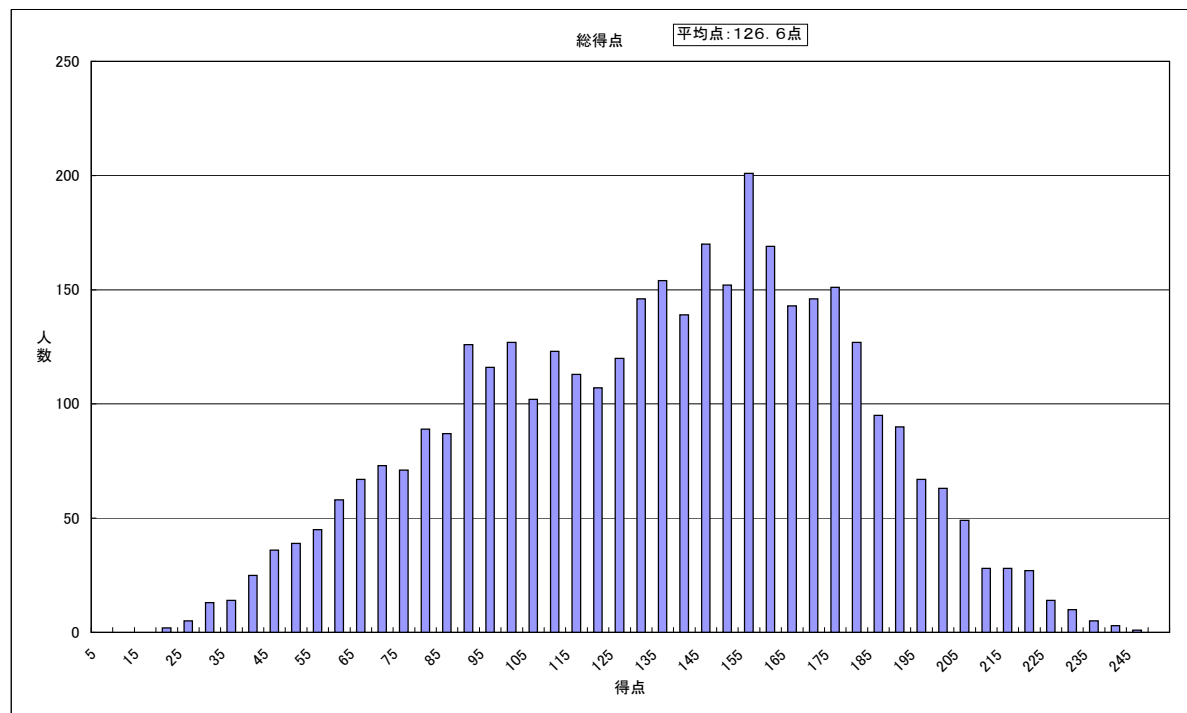
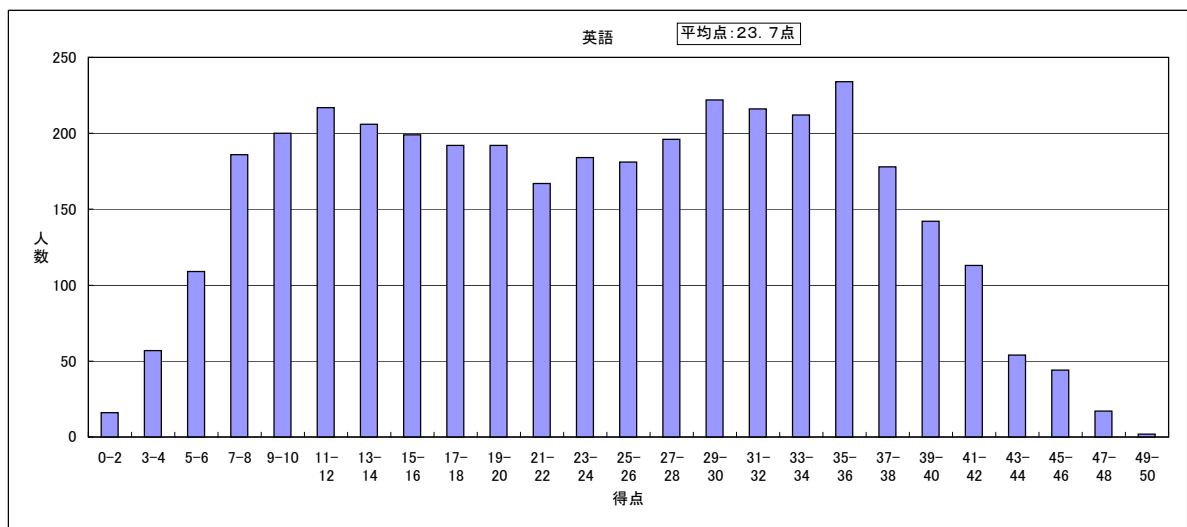
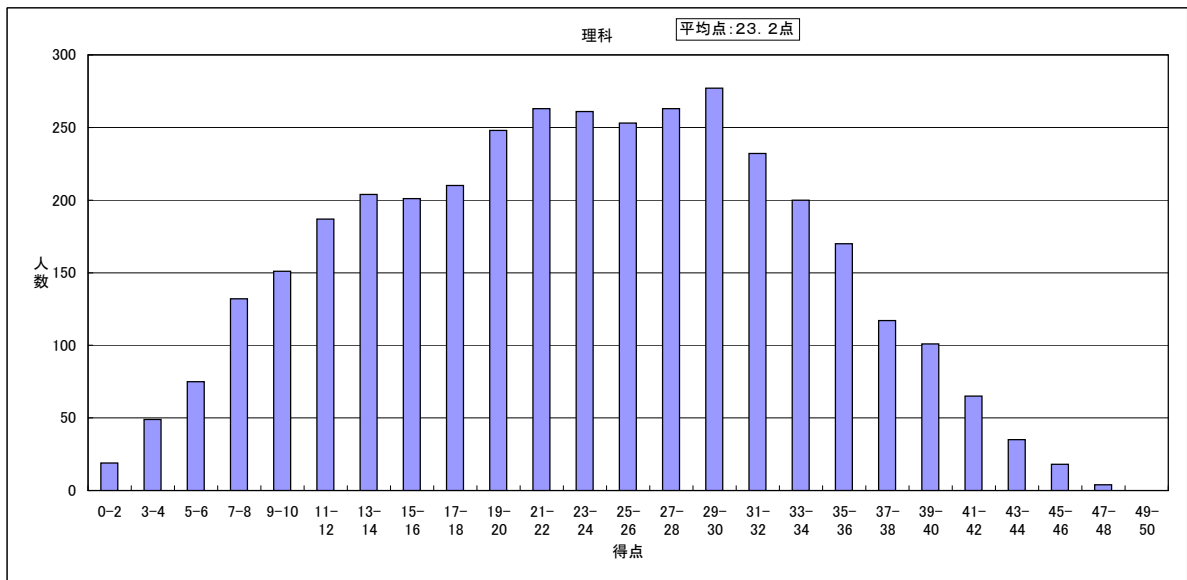
(参考)

年度	教科名	国語	社会	数学	理科	英語	総得点
平成20年度	平均点	25.2	27.8	21.2	25.5	31.1	130.7
平成19年度	平均点	29.8	29.2	21.0	28.7	26.0	134.7
平成18年度	平均点	30.6	24.7	17.6	25.7	28.3	127.0
平成17年度	平均点	24.9	30.5	22.9	25.9	28.1	132.2
平成16年度	平均点	32.8	28.4	27.6	32.0	27.8	148.6
平成15年度	平均点	34.6	29.2	23.9	28.1	27.3	143.1
平成14年度	平均点	28.8	28.6	25.9	26.3	28.2	137.6
平成13年度	平均点	31.1	31.2	28.4	30.8	28.6	151.1

各教科50点満点、合計250点

2 教科別得点の度数分布及び総得点の度数分布(全日制課程)





【各教科における度数分布】

(人)

得点	教科	国語	社会	数学	理科	英語
0	～ 2	2	2	8	19	16
3	～ 4	5	13	25	49	57
5	～ 6	29	43	35	75	109
7	～ 8	45	76	61	132	186
9	～ 10	86	102	59	151	200
11	～ 12	148	155	87	187	217
13	～ 14	170	215	124	204	206
15	～ 16	193	233	100	201	199
17	～ 18	253	211	121	210	192
19	～ 20	278	222	155	248	192
21	～ 22	262	259	182	263	167
23	～ 24	301	262	190	261	184
25	～ 26	283	242	178	253	181
27	～ 28	299	277	232	263	196
29	～ 30	286	261	263	277	222
31	～ 32	256	252	298	232	216
33	～ 34	212	228	284	200	212
35	～ 36	201	225	297	170	234
37	～ 38	164	180	264	117	178
39	～ 40	127	127	226	101	142
41	～ 42	80	80	190	65	113
43	～ 44	41	37	168	35	54
45	～ 46	13	28	108	18	44
47	～ 48	2	4	58	4	17
49	～ 50	0	1	23	0	2
受検者数		3736	3735	3736	3735	3736

【総得点における度数分布】

総得点	人数
0	0
6	0
11	0
16	2
21	5
26	13
31	14
36	25
41	36
46	39
51	45
56	58
61	67
66	73
71	71
76	89
81	87
86	126
91	116
96	127
101	102
106	123
111	113
116	107
121	120

総得点	人数
126	146
131	154
136	139
141	170
146	152
151	201
156	169
161	143
166	146
171	151
176	127
181	95
186	90
191	67
196	63
201	49
206	28
211	28
216	27
221	14
226	10
231	5
236	3
241	1
246	0
受検者数	3,736

3 教科別の学力検査結果の概要

国 語

1. 問題一は、例年通り小問集合形式による出題で、基礎的な国語の力をみるものとした。日常生活に関連するはがきの宛名の書き方に関する問題は正答率が高かったが、文章中の送り仮名や敬語の間違いを正しく書き直す問題と漢字の画数に関する問題の正答率が低い。
2. 問題二は、小説として基礎的な言語事項や登場人物の心情等の理解や読み取りの力をみた。文脈から空欄を補充する問題や一文の効果を問う問題は正答率が高いが、登場人物の心情を考察する問題の正答率が低い。前後の描写や本文全体をじっくりと吟味して、正答を導き出す態度の育成が必要である。
3. 問題三は、古典分野の古文からの出題とした。歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに改める問題は正答率が高いが、係の助詞の問題は正答率が低かった。基礎的な力をバランスよく定着させる必要がある。また、文脈から主語や筆者の考えを導き出す問題は概ね良好であった。
4. 問題四は、説明的文章とした。指示語の内容を簡潔にまとめたり、一文を言い換えたりする問題の正答率は高かった。一方で、本文の内容から筆者の考えや空欄部分を推測して記述する問題や、本文の内容を踏まえて条件に従って記述する作文問題の正答率は非常に低いうえ、無答率も高い。本文から抜き出すばかりでなく、本文に書かれていることを根拠にして、自分の言葉で説明したり、自分の考えや意見をまとめ表現したりする力に課題がある。

社 会

1. 地理分野において、地図や統計などの資料を正確に読み取る地理的技能に加え、地域的な特色を総合的に判断する力も身につけてきている。地形図を読み取る問題の正解率も高かった。しかし、発電所の種類を問う基本的な問題や緯度と経度の基本的な知識を活用して表現する問題の正答率が低かった。
2. 歴史分野において、我が国の歴史の大きな流れを理解しているかを問うた年代を並べ替える問題の正答率が低く、十分な理解ができているとは言えない。また、地租改正以降、誰がどれだけ何で納めたかを正確に説明できた回答は少なく、無答率も10%を超えた。我が国の歴史の背景にある世界の歴史についての理解は概ね良好であった。
3. 公民分野において、政治、経済の基本的なしくみを問う問題は概ね良好であった。しかし、基本的な語句や法律名を記述により解答する問題では、無答率が10%を超えるものがある。また、グラフとリード文を読み、法案可決に必要な最小限の賛成票数を考える問題は、正答率が極めて低かった。
4. いずれの分野においても、社会的な問題に関心を持ち、基礎的・基本的事項を理解したうえで、多面的・多角的に考えて判断する力を育成していくことが重要である。また、選択肢により解答する時間に比べ、記述により解答する問題では無答率が低かったことから、知識を活用し、自分の考えを論理的に説明し表現する力を一層培っていくことが望まれる。

数 学

1. 問題1は各学年で学習する基礎的・基本的事項の理解度及び計算力を見る問題を出題した。概ね正答率は高く、良好な結果であったが、変化の割合を問う問題は無答率が高かった。言葉の意味を十分に理解できていない受検生が多いと考えられる。
2. 問題2は日常的な場面を題材とした。文字を利用した表現までは出来ているが、やや複雑な連立方程式の処理が不十分で、誤答率、無答率ともに高かった。
3. 問題3は問題文が理解できていないのか無答率が高かった。図の中に問題文で示された座標の値の一部しか示していなかったことが、その一因と推察される。グラフの問題では、座標等の条件を図中に書き込む指導の徹底が望まれる。
4. 問題4は立体図形を取り扱った。立体図形の中に含まれる平面図形に注目したり立体を多角的に見たりするなどの態度の育成が必要である。
5. 問題5は誘導に従い問題場面を理解しようとしており、良好であった。全体的に難問が少なく、時間に余裕を持って最後まで取り組めた結果と思われる。
6. 教科書や問題集等で学習した型どおりの問題にはよく対応できているが、型どおりには処理できない問題や、型にはめるまでに思考・試行を要する問題では正答率が低い。補助線を引く、表を作る、いくつかの値を代入するなど具体的な操作をとおして、問題場面を理解しようとする態度の育成が必要である。

理 科

1. 身近な自然の事物・現象について、基礎的・基本的事項の理解をみる問題については正答率が高く、平素の学習の成果が現れていた。今後とも、広く全領域にわたって学習することが大切である。
2. 問題2のように、教科書に記載されているものと異なる装置で実験する問題では、正答率が低だけでなく、誤答率も高かった。基本的な原理の理解が不足しているため、装置が変わった場合に応用がきかなかったものと考えられる。
3. 問題3、問題のように、実験により得られたデータを読み取って考察したり、計算したりする問題では、正答率が低ばかりでなく、誤答率、無答率ともに高かった。データを分析し、考察して自らの考えを導き出し、表現する力が十分でないと考えられる。また、既習事項を関連づけながら、総合的に考察する力も必要である。
4. 全般的に、選択肢により解答する問題に比べ、記述により解答する問題では正答率が低かった。問題文や図表等で示された条件を読み取って、説明、計算、作図する問題では、的確に解答できていない受検生が目立った。読解力や思考力・表現力の育成が課題である。
5. 日常生活の中で驚いたり疑問に感じたりした現象について、調べたり考えたりする態度や能力を育成したり、平素の学習に可能な限り実験・観察を取り入れて、得られた結果を分析し、考察する習慣をつけるなど、探究的な学習を一層推進する必要がある。さらに、探究の過程をレポートにまとめたり、プレゼンテーションするなど、表現力の育成にも努める必要がある。

英 語

1. 問題1の聞き取りの問題については、英文を二度聞く問題に比べ、一度しか聞けない問題の正答率は低かった。一度の放送の中で聞き取るべき英文や会話は、基本的な単語で構成されているにも係わらず、必要な情報を得たり、類推を必要とする問題の正答率は低い。
2. 問題2の「書くこと」に関する問題では、基本的な熟語や語法を答える問題の正答率が高いが、複数の文法事項を組み合わせて英語で表現したり、与えられた内容について自分の考えを英語で表現する問題では正答率が低い。
3. 問題3・4は「読むこと」に関する問題とし、問題3は「会話文」、問題4は「物語」を扱い、ともに昨年度よりやや長めの英文とした。本文の流れに沿って、英文を補充する問題では正答率が高いが、問われている情報を探し出し設問の趣旨に沿って解答する問題では正答率が低い。また、本文の内容を別な英語で置き換える問題においても、基本的な単語では答えられるが、熟語や文法事項が加わると正答率が下がる傾向がある。
4. 全体を通して、まとまりのある英文から必要な情報を得たり、まとまりのある英文を書いたりする実践的コミュニケーション能力に課題がある。また、複数の事項を組み合わせて英語で表現したり、論理的に解答したりする問題での正答率が低く、思考力・表現力に課題がある。このため、得点分布では上位者が少なく、下位者が多いという傾向が出ている。基本的な事項を言語活動を通じて定着させるとともに、英語に一層慣れ親しみ、話し手や書き手の意向を理解したり、自分の考えを相手に正しく伝える経験を積む必要がある。